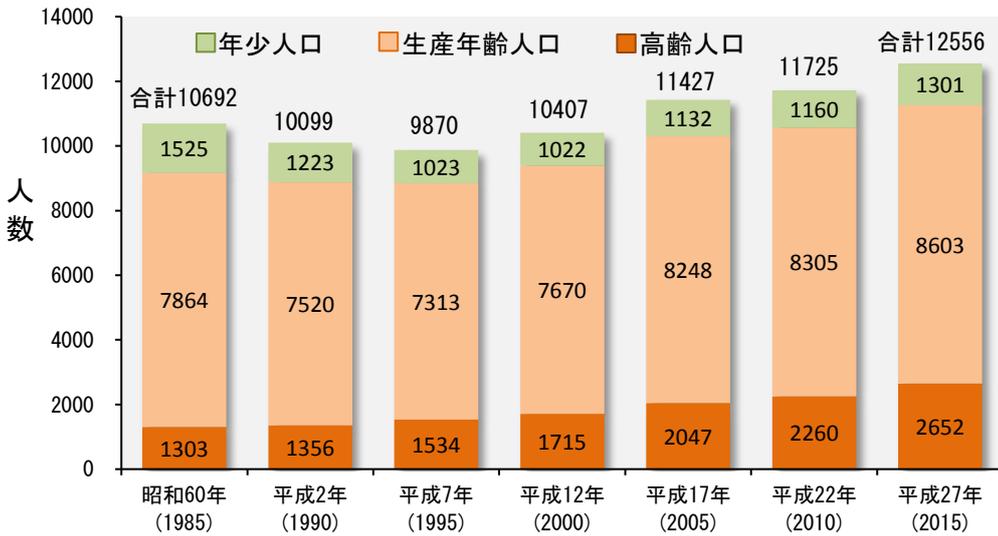


年齢3区分別人口の推移

資料：区政要覧・区政情報コーナー年齢別人口表(平成27年4月1日現在)

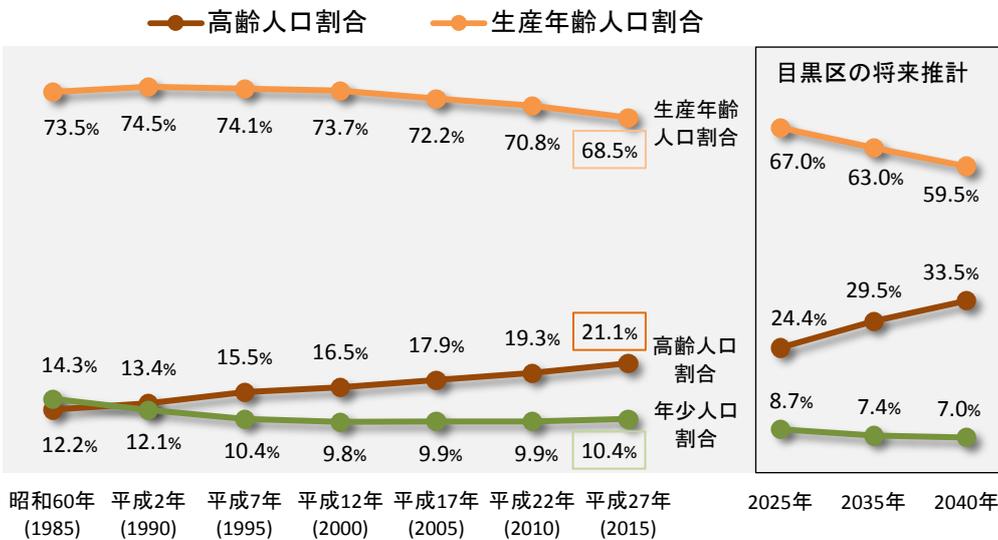


年少人口(0~14歳)は少子化により、平成12年(2000年)に1022人と最も少なくなり、昭和60年(1985年)に比べ502人減少しました。その後、少しずつ増加傾向にあるものの現在は当時に比べ224人少なくなっており今後も減少傾向が続くと推測されます。

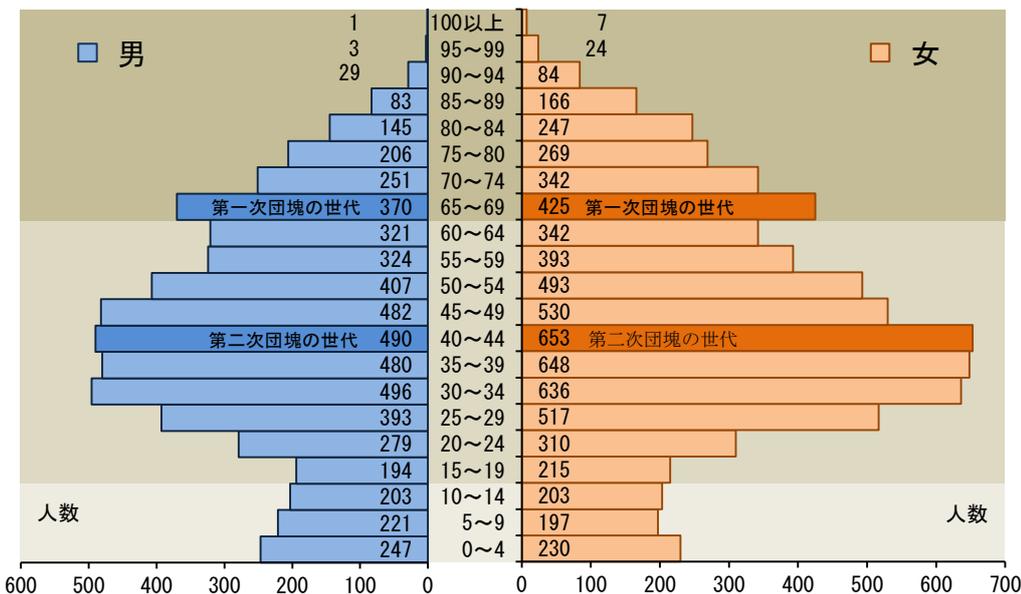
生産年齢人口(15~64歳)は住区設立当時に比べ739人増加したが、全体に占める割合で見ると今後は減少傾向になると予測され、目黒区の将来人口推計によると10年後20年後の割合は更に減少すると推計されます。

高齢人口(65歳以上)は、1349人増加し、年少人口の2倍を超え、年々その割合は確実に増加します。また高齢化率は平成27年(2015年)に21.1%となり今後の推計によると20年後には30%近くになると推計されています。高齢人口のうち、75歳以上(後期高齢者)の占める割合は平成27年(2015年)現在47.7%となっています。

年齢3区分割合の推移



男女別5歳年齢階級別人口ピラミッド



第一次団塊の世代はすでに高齢者人口に入っていますが第二次団塊の世代が高齢者人口に移行する20年後には高齢者化率はピークを迎え、以降しばらく高い数値が続きます。

100歳以上は、昭和60年(1985年)当時は0であったが平成27年(2015年)は8名(男1, 女7)に増加しました。